

塩水川流域総合保全構想とガイドラインについて

資料2-2

	丹沢大山自然再生基本構想 (→新丹沢大山保全計画)	流域総合保全構想策定ガイドライン (手順書)	塩水川流域総合保全構想	
位置づけ	新たな自然環境管理の考え方に沿う丹沢大山地域の自然再生の基本的な方向性や方法を示したもので、県は本構想に即して「新丹沢大山保全計画」を策定し、自然再生事業を展開する	基本構想(全体計画)に基づいて県が特定の流域で横断的な事業実施計画を策定するための手順書	土壤保全対策を軸に統合的な事業展開が求められている塩水川流域における「流域総合保全構想策定ガイドライン」に即した、具体的な事業計画策定の事例	
策定目的	丹沢山地の主要自然環境問題および特定課題の解決に必要な課題整理、目標設定、再生手法を明らかにすること。	丹沢大山自然再生基本構想に即して小流域レベルで実際に事業を展開するための具体的方法を示す。(課題抽出方法、目標設定方法、目標達成に必要な事業の設定方法等)	塩水川流域において緊急課題である土壤保全対策を将来的な流域問題解決も見据えて、総合的・順応的に事業を推進するため。	
策定主体	丹沢大山総合調査実行委員会	県(丹沢大山保全緊急対策検討委員会)	流域総合保全協議会(仮)(案)は、丹沢大山保全緊急対策検討委員会	
計画対象範囲	丹沢大山全域 (8市町村の市街化区域を除いた地域)	基本構想全体計画で示された重点流域 (計画区レベル)	塩水川流域	
事業計画ユニット	大流域	細地区、林分	細地区、林分	
策定時期	2006	2006	2006	
更新サイクル	10年	随時	5-10年	
記載内容(要素)	現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○現状把握 <ul style="list-style-type: none"> ・生きもの、水土、地域の3つの領域の総合調査、既存情報に基づき、現状の整理と個別課題抽出 保全対策の実績とその効果検証結果の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ○現状把握の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・特定流域での事業実行に必要な現状把握の要素・方法、個別の課題抽出方法を示す。 ・流域の歴史的変遷と、これまでの事業実績、その検証結果などを整理する手順、事業評価方法(事業目的に則して、定量的、定性的に達成度・・・) 	<ul style="list-style-type: none"> ○現状把握(参考)中津川流域の概況(資料2-3) (内容案)資料2-5 ①検証結果(参考)保全対策事業の内容と実績(第2回検討委員会資料)(参考)塩水川流域の変遷(資料2-4)
	課題整理	<ul style="list-style-type: none"> ○課題整理 <ul style="list-style-type: none"> ・総合解析により、今後の自然環境問題および特定課題解決に向けた課題の整理 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題整理、分析の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・課題の相互関係の分析方法(抽出された課題に関して、各分野の関連要因の位置情報を収集し、課題を具体的場所に落とし込む手順を示す。) ・課題の優先順位の基準(森林機能の階層性) ・実行上の課題を整理する手順(問題解決に向けて不足する知見・技術、総合的・順応的取り組み、利害関係者の合意形成など) 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題整理(内容案)資料2-5 ②流域の現状の課題(今後)現況の課題を図面上であらわす。 (内容案)資料2-5 ③事業実行上の課題
	目標設定	<ul style="list-style-type: none"> ○全体目標、景観域別目標の設定 ・景観域(ブナ林、人工林、里地里山、溪流)に対応するバランスの良い自然環境問題解決の具体的な目標の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ○流域目標設定の考え方 <ul style="list-style-type: none"> ・丹沢大山自然再生基本構想に即し流域の特性等の条件に応じた具体的な目標の設定方法、考え方。 ・参考要素(既存施策の方向性等) ・緊急・短期的目標の考え方(森林機能の階層性に基づき、場所ごとの課題の優先順位付けをする。) ・中長期的目標の考え方(自然の階層性と社会経済とのバランスの取れた流域保全目標を設定) 	<ul style="list-style-type: none"> ○流域目標設定(内容案)資料2-5 ④流域目標設定 ・流域の中の具体的な場所について、具体的な目標(状態や数値基準)を設定する。
	取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ○基本原則、実現手法の提示 6つの原則 6つの実現手法 	<ul style="list-style-type: none"> ○原則に基づく事業実行方法 <ul style="list-style-type: none"> ・統合型・順応型・参加型による事業の推進方法(統合型の範囲、検証項目の考え方・・・) ・流域保全は、流域の生態系のバランスのとれた保全・再生と地域の社会・経済の再生を通じて実現する。 ・事業相互の連携を、達成目標の共有と共通項目による検証を通じて実現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○原則、実現手法の具体化 ・総合的に実行する事業の範囲
	計画の策定	<ul style="list-style-type: none"> ○全体計画の提示 	<ul style="list-style-type: none"> ○流域の総合保全のための事業実行にあたって <ul style="list-style-type: none"> ・事業体系、役割分担の考え方 ・事業実行にあたって明確にしておくべきこと(対象事業、期間、調整手段、実施方法、全体検証方法・・・) 	<ul style="list-style-type: none"> ○具体的流域総合保全構想の提示 ・流域の問題解決の事業体系と担うべき領域 ・何を目的にどこで何をするか、流域の中の具体的な場所を示す。
個別対策	<ul style="list-style-type: none"> 8つの特定課題および主要自然環境問題の解決に実効性ある施策・事業を、期間、実施方法、検証方法などをまとめて行動計画として示す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別事業計画への反映 	<ul style="list-style-type: none"> ○個別事業の実施方法 個別事業実施計画案 	
アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> 推進構想 全体計画図 特定課題行動計画 自然環境情報ステーション(データベース) 	<ul style="list-style-type: none"> 流域保全構想ガイドライン 	<ul style="list-style-type: none"> 塩水川流域保全構想 流域変遷・現状分析結果 事業調整計画案 	